

10月から

より良い環境を未来に残すため

指定ごみ袋制度が始まります



問い合わせ 環境施設課 ☎32-5391

10月からは指定ごみ袋でごみ(燃やすごみ・その他燃やさないごみ)を出してください。
4月～9月は指定ごみ袋以外の袋でも捨てることができます(移行期間)。

芦屋市の指定ごみ袋とは？

対象となるごみ

- ・燃やすごみ
- ・その他燃やさないごみ
- ・パイプラインに投入するごみ

販売場所

市内のコンビニ・商店、市内・市外近隣のスーパー・ホームセンター等の予定

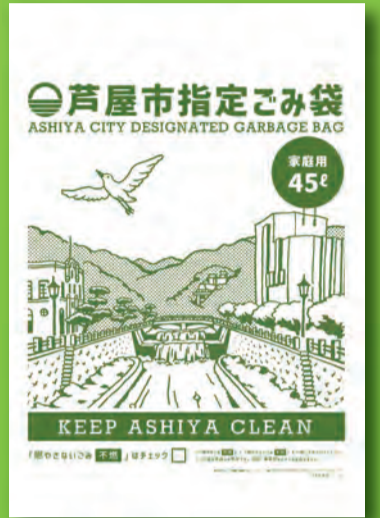
サイズと価格

袋の種類は1種類です
サイズ:45L・30L・15L・5L

※当初、45L・30L・10Lとお知らせしていましたが、市民の皆さんの要望を受け上記のサイズとしました。

価格:厚さや品質が同じものであれば、これまでと大きく変化しません(店舗により値段が異なります)

さくらまつり(4月2日)の会場にてサンプル配布します(予定・数に限りあり)



芦屋川をあしらったデザインで従来のごみ袋より二酸化炭素が軽減される素材を盛り込んだ袋です。

なぜ指定ごみ袋にするのですか？

ごみの分別を推進し、燃やすごみを減らすために一人ひとりに分別の徹底を意識してもらうためです。

芦屋市のごみの現状

「ごみの分別なんて当たり前だし、みんなやっているでしょ」と思っている方も大勢いるかもしれませんが、芦屋市のごみの分別実態を見てみるとペットボトル・空き缶・石や土に炊飯器まで燃やすごみとして捨てられています。また、芦屋市の家庭から出る燃やすごみの約45%は紙類です。本来資源ごみである紙類(紙や新聞紙)が多く混入しており、芦屋市のごみの量を増やす要因の一つとなっています。ひとり1日あたりのごみの量は552gと県の平均より多く、ごみの量の少ない順にみた場合、兵庫県内41市町のうち33位(平成30年度)となっています。

燃やすごみが多いと…

ごみを燃やすと灰になります。灰は六甲アイランド沖に埋め立てられています。芦屋市は兵庫県下でも灰が多い自治体です。灰が多ければ多いほど海が減っていきます。燃やすごみに混ざったびんや金属が燃えずにそのまま灰と一緒に埋め立てられるのも海が減っていく原因の一つです。



▲燃やすごみに本来は資源となる紙類・缶・ビン・ペットボトルが混ざり、ごみの増量の要因に。またスプレー缶やガス缶は、火災・爆発の原因になっています。



▲ごみ等を埋め立ててできている島

芦屋市の詳しいごみの分別現状



意識をもって分別を

ごみの分別ができていないことにより、水銀などが混ざり焼却施設が停止したり、中身が使い切れていないスプレー缶やガス缶による火災や爆発なども起きています。



分別が進めば、燃やすごみが減ります。燃やすごみが減れば海の埋立て量も燃焼による二酸化炭素の量も減り、地球温暖化防止へもつながります。一人ひとりが意識をもって分別を徹底することが大切です。



▲スプレー缶による火災が起きています



燃やすごみが減ると現在整備検討中の新ごみ処理施設の焼却炉も小さくできるため、建設費用の縮減につながります。